

「日本のど真ん中」ロゴデザインコンペ 募集要項

1. 趣旨

現在、長野県^{たつのまち}辰野町では、「日本のど真ん中」をキーワードに、まちづくりや地域振興の取り組みを進めています。

辰野町は日本一ゲンジボタルが発生する「ほたるの里」です。6月には「ほたる祭り」が盛大に開催され、県内外から多くの方が来られます。これまでは「辰野町=ほたる」でしたが、「ほたる」と並ぶ辰野町の二本目の柱として「日本のど真ん中」を推しています。

「日本のど真ん中」には、辰野町が日本の中心であることを誇りに思い、日本の中心から発信していこうという決意と覚悟を込めています。

そこで、これらの取り組みを効果的に進めること、「日本のど真ん中」を通じて辰野町をアピールすることなどを目的に、ロゴマークの募集を行います。

2. 主催

ど真ん中プロジェクト・日本のど真ん中コンペ実行委員会、辰野町

3. 背景

- 長野県辰野町では、昔から日本の地理的な中心であることをうたうとともに地域の魅力を発信してきました。
- 地理的な中心の根拠としては、“北緯 36 度 00 分 00 秒、東経 138 度 00 分 00 秒”の交点があることがあげられ、従前より「日本の地理的中心のゼロポイントの標」*1、「日本中心の標」*2などを設置してきたところです。
- このような中、平成 30 年秋に、NHK の人気バラエティ番組「チコちゃんに叱られる！」内において、様々な理由から日本の中心を掲げている全国 28 自治体の中心点が辰野町にあるとされ、「日本の中心の中心は辰野町」*3として認定を受けました。
- このことをきっかけに、辰野町と言ったら「日本のど真ん中」として町を盛り上げて行こうという機運が町民の皆さんの間で高まり、「日本のど真ん中」をキーワードに辰野町を発信する方策を皆で考える「ど真ん中作戦会議」*4が発足しました。
- 作戦会議はこれまでに 3 回開催され、子どもから大人まで多くの皆さんの参加がありました。会議は盛り上がりを見せ、様々なアイデアが出されるとともに、このアイデアを実現するために「いくつかのプロジェクト」*5が立ち上がりました。
- さらに会議では、これらのプロジェクトは内容や関わる人も多彩であること、また、今後も同モチーフによる様々なモノ、コト、取組が生まれることも期待できることから、統一的なブランドイメージを形成する必要があるのではという意見もあったところです。
- そこで、町では「**ど真ん中プライド**」*6をコンセプトに統一ロゴを作成することとし、その作成に当たっては、広くアイデアを募集し関係者及び有識者で審査を行い決定す

るコンペ形式を採用することとしました。

- 今後、辰野町民だけでなく、これから辰野町に関わってもらえる沢山の人々に愛着を持ってもらえるような、使いたくなるようなロゴデザイン案を幅広く募集します。

「3.背景」の注釈

* 1～6：当要項の5ページ以下を参照ください。

4. 募集内容

「ど真ん中プライド」をコンセプトにした「日本のど真ん中」のロゴデザイン（以下、「作品」という。）

なお、作品の作成及び応募に当たっては、「11.留意事項」にご留意ください。

5. 応募資格

- (1) プロ・アマ問わず個人またはグループで応募可能です。
(グループの場合は、代表者を1人定めてください)
- (2) 応募点数は1人（1グループ）3作品を上限とします。

6. 募集期間

令和元年5月9日（木）～ 5月23日（木） 17時（必着）

※締切直後から審査に入りますので、期限は厳守してください。

なお、募集期間終了後に届いたものについては選考対象外になります。

7. 応募方法

別紙1「応募申込書」に必要事項を記入いただき、下記に記載の提出物を添付の上、「12. 作品の提出及び問い合わせ先」あて、郵送、持参または電子メールにてご提出ください。

また、電子メールの件名は【「日本のど真ん中」ロゴデザインコンペ応募】としてください。なお、データ容量が大きく、送信できない場合はご連絡ください。

< 提出物 >

応募作品は、デジタルデータまたは紙媒体（手書き可）でご提出ください。

下記の ①・② または ①・③ をご提出ください。

① 応募申込書 必須

辰野町が運営する次のウェブサイトからダウンロードしてください。

辰野町公式ホームページ <http://www.town.tatsuno.lg.jp/>

② デジタルデータ

ファイル形式はAIデータで、印刷した場合にA4サイズに収まるものとしてください。併せて、PDF、JPEGデータもA4サイズで作成して提出してください。

③ 紙媒体（手書き可）

A4用紙で作成し、背景は白色としてください。

8. 賞

最優秀賞（1点） 賞金 10万円

9. 審査員

審査員長	指出 一正	株式会社 sotokoto online 代表取締役 ソトコト編集長
審査員	中沢 定幸	デザイナー（中沢デザイン事務所 代表、長野 ADC（アートディレクターズクラブ）会長）
	安部 昭二	たつのふるさとパートナー 衣装デザイナー（有限会社 マッシュトラント 代表）
	武居 保男	辰野町長
	苫米地 花菜	辰野町地域おこし協力隊 （ど真ん中プロジェクト担当）

10. 作品審査

- (1) 一次の書類審査、二次の公開プレゼンテーション及び審査員による審査を経て、最優秀賞 1 点を決定します。
- (2) 一次審査の結果は、審査通過者への電子メールの連絡をもってお知らせします（審査を通過しなかった方への連絡はいたしませんのでご了承ください）。
- (3) 二次審査は、作品の作成者による公開プレゼンテーション^{*7}を予定しています。
対象となる方には、一次審査終了後に電子メールにてご連絡申し上げますので、下記「(4) 審査スケジュール」記載の二次審査当日に会場までお越しください。審査会場及び時間は、二次審査の連絡に併せてお知らせします。また、会場までの交通費として、実費分（上限あり）の旅費支給を行う予定です。
なお、二次審査当日に来場できないと見込まれる場合には、事務局までご連絡ください。

(4) 審査スケジュール

5月 9日 (木)	募集開始
14日 (火)	質疑への対応開始 ・いただいた質疑は、辰野町公式ホームページに順次掲載します。 ・個別の回答は行いませんのでご承知おきください。
16日 (木)	質疑受付終了（翌日までに最終質疑へ回答）
23日 (木)	募集締切 → 28日まで一次審査実施
28日 (火)	一次審査終了、審査通過者への結果通知、一次審査通過作品の一般公開

6月 1日 (土)	一般投票 ・二次審査会場に投票箱を設置し、来場者から投票いただくことを予定【6月1日のみ】
6月 1日 (土)	二次審査（公開プレゼンテーション及び審査員審査） ・最初に審査員及び来場者に対し、作成者からプレゼンテーションを実施いただくことを予定 ・公開プレゼンテーション及び一般投票の結果を踏まえ、審査員による審査を実施 ※審査員による審査過程は非公開で行います。
15日 (土)	最優秀賞発表 ・「第71回 信州辰野ほたる祭り」のオープニングセレモニーの中で発表する予定 ・受賞者には、15日までに事務局から電話及び電子メールでご連絡します。 ・17日以降、辰野町公式ホームページ上に結果を公表する予定

※各次審査の内容及び審査結果に対する個別の対応はいたしません。

11. 留意事項

(1) ロゴ作成に係る留意事項

- 「3. 背景」をご理解いただいた上で、ロゴ内に**“Center of Japan”**という文字を**取り込んだ（組み合わせた）**作品としてください。
- 色数は自由ですが、拡大、縮小、単色での使用を考慮してください。
- 採用作品が手書きの場合、作品の趣旨を損なわない範囲において、事務局側で作画、トレースを行い、電子データを作成します。

(2) ロゴ応募に係る留意事項

- 作品は、国内外で未発表かつ著作権や商標権、その他の第三者の権利を侵害するおそれがないものとしてください。
- 応募いただいた作品データ（提出物）の返却はいたしません。
- 次の事項に抵触することが判明した場合、受賞決定後であっても受賞を取り消し、賞金を返還いただくことがあります。
 - ・ 作品が公序良俗その他法令の規定に反するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権や第三者の権利を侵害しているもしくは類似性が判明した場合
 - ・ 応募申込書の記載に虚偽が判明した場合
 - ・ 応募者の反社会的勢力の活動を助長する行為が判明した場合
- 上記による取り消しの結果、発生する第三者とのトラブル、損害等について主催者は責任を負いません。また、これらにより主催者側に損害が発生した場合、応募者側に相応額の負担を求める場合があります。
- 応募に係る個人情報、本人の許可なく、当該業務に関する以外の目的で利用もしくは第三者へ提供することはいたしません。
- 最優秀賞の受賞者は、プロフィールを公開します。なお、公開する情報の範囲は個

別に調整させていただきます。

(3) ロゴの利用に係る留意事項

- 最優秀賞作品の著作権、使用権、商標権その他一切の権利は辰野町に帰属するものとし、また、受賞者は著作者人格権を行使しないものとし、
- 最優秀賞作品は、利用に際して最終データ納品前にデザインの調整をしていただく場合があります。
- 最優秀作品は、辰野町及び日本のご真ん中コンペ実行委員会だけでなく、辰野町の各種 PR 及び振興施策の推進等を目的として、掲載・使用することがあります。また、その際に作品の一部加工または調整させていただく場合があります。なお、作品の一部を単体で使用することや、他のデザインやロゴと組み合わせて使用することがあります。

12. 作品の提出及び問い合わせ先

事務局：辰野町役場 まちづくり政策課（ロゴコンペ 担当：高津、赤羽）

〒399-0493 長野県上伊那郡辰野町中央1番地

TEL：0266-41-1111

E-mail：tyakuba@town.tatsuno.lg.jp

【3. 背景の注釈】

*1 「日本の地理的中心のゼロポイントの標」

- 北緯と東経が 00 分 00 秒で交わる点をゼロポイントと言い、日本全国には 40 箇所ほど存在しています。辰野町には北緯 36 度と東経 138 度が 00 分 00 秒で交わるゼロポイントがあります。
- 辰野町にあるゼロポイントが日本の地理的中心であることについては、世界的なアメリカの地図会社「ランドマクナリー社」の地図にも記されています。
- 当標は、辰野町内の民間有志が中心となって造られました。

*2 「日本中心の標」

- 辰野町にある鶴ヶ峰という山の標高 1225m 地点には、「日本中心の標」が立られています。これは昭和 45 年に、辰野町内の民間有志によって設置された石碑で、「東経 137 度 59 分 36 秒、北緯 36 度 00 分 47 秒」と刻まれています。鶴ヶ峰には高さ 6 m、8 角形の展望台があり、展望台に登ると視界はほぼ 360 度で、北・中央・南アルプス、八ヶ岳を望むことができるとも眺望の良い場所です。
- 周囲一帯を眺望できる地点ということで、ゼロポイントとは多少ずれてはいますが、この位置に石碑が建立されました。
- 参考 URL
辰野町ホームページ

<http://www.town.tatsuno.nagano.jp/zeropoint.html>

- *3 「日本の中心の中心は辰野町」
 - 平成 30 年 9 月 21 日放送の NHK バラエティ番組「チコちゃんに叱られる！」内の「日本の中心ってどこ？」というトピックで、当内容が取り上げられました。

- *4 「ど真ん中作戦会議」
 - 参考 URL : 辰野町ホームページ
<https://www.tatsuno-life.jp/information/10555/>
「たつの暮らし」フェイスブック
<https://www.facebook.com/events/1140295752792658/>

- *5 「いくつかのプロジェクト」
 - アイデアを実現するべく、民間有志が主体となって「ど真ん中プロジェクト」と銘打った以下のプロジェクトが進行中です。
 - 食べ物、PR 活動、PR グッズ、音楽フェス、ゆるキャラ、居酒屋、ツアー、町名変更

- *6 「ど真ん中プライド」
 - 「日本のど真ん中の町で暮らすことに住民が誇りを感じ、自信を持って全国へ発信し売り込んでいく、ヒト・モノ・コトを生み出していく」という意気込みを表した言葉。

- *7 「公開プレゼンテーション」
 - 今後、50 年、100 年と様々なヒト・コト・モノで愛され使われて行くために「日本のど真ん中」ロゴについて、デザインコンセプトを創作者から直接聞かせてもらう機会を設けました。ロゴが決定されることでロゴに込められたデザインコンセプトを、ロゴを使っていく人々が語れるものでありたいと願っています。本当の意味で自分たちのロゴとなるようにとの思いで、公開プレゼンテーションを実施します。

- * その他参考資料
 - 平成 31 年 1 月 6 日付け「たつの新聞」の一面（別紙 2）

(別紙 1)

「日本のど真ん中」 ロゴデザインコンペ 応募申込書

(申込日 令和元年 5月 日)

1. 応募者情報

氏名 (代表者氏名)	(ふりがな)
個人/団体	個人 / 団体
年齢 (令和元年 5月 23日時点)	
所属 (団体名)	(ふりがな)
職業	
代表者連絡先	住所 〒
	TEL (日中連絡のつく番号)
	E-mail

※応募に係る個人情報は、本人の許可なく、当該業務に関する以外の目的で利用もしくは第三者へ提供することはいたしません。

2. デザインの趣旨・コンセプトなど

--

提出期限：令和元年 5月 23日 (木) 17時 必着



自分がやりたいプロジェクトを考えた第3回作戦会議=12月

10月26日

記者懇談会で武居保男町長が「ど真ん中町」構想の実現に向け、ど真ん中作戦会議を開催すると発表

11月22日

第1回ど真ん中作戦会議を開催。西小6年男組の有志児童が参加し、クラスで考えた「ど真ん中」のアイデアを発表。会議に活力を与え、ワークショップでは多彩なアイデアが出された

11月29日

第2回ど真ん中作戦会議。項目別に集約したアイデアを具体化するための方法を深掘りしていくワークショップを実施。ロゴデザインの投票も行われた

12月13日

第3回ど真ん中作戦会議。具体的なアイデアを参加者に提案してもらい、賛同者が集まってプロジェクトを結成。九つのプロジェクトチームが活動していくことになった。併せて、コンセプト「ど真ん中プライド」を発表

ど真ん中作戦会議の経過

「ど真ん中」プロジェクト

町民主導でチーム結成

音楽イベント、商品開発など具体化へ

辰野町が進める「ど真ん中町」アピールに向け、音楽イベント開催や商品開発、PR戦略など複数のプロジェクトチームが、昨年暮れのとど真ん中作戦会議を経てスタートを切り、早くも具体的な動きを見せ始めている。町主導でチーム立ち上げではなく、「本気になってやってくれそうな人たち」先頭に立つてもらいたい」と、同じ目的やアイデアを持つ人同士がチームを組む町民主導型であることが特徴。町も補助制度の紹介などを通してプロジェクトを支援していく。

辰野町がテレビ番組「開いた作戦会議」では、町は当初、会議で出された多彩なアイデアを絞り込み、それを基にプロジェクトチームをつくっていくと考案した。だが、アイデアありきで進めようとする「チームリーダー」を押しつけることになつてしまつた。その懸念が生じた。そこで、3回目の会

議は「アイデアの実現を強く思っている人に手を挙げてもらい、プレゼンテーション（提案）をした上で賛同者を募っていく」という方法を取った。その結果、小学生や高校生を



発行所 千原42 辰野町千原上町2369
たつの新聞社
編集・発行人 薩摩 建
電話 代表 41・0313
FAX 41・0812
インターネットページ www.shimin.co.jp
E-mail tatsuno@shimin.co.jp
©たつの新聞社 2019年
定価 1か月 1,580円
1部売り 60円 (税込み)
本紙をお届けする販売店
共和堂新聞店 41-0065
伊藤新聞店 41-2007
コンビニもご利用ください

記者席

若い世代から強い意欲感じ

〇：本紙記者も、3回の会議に取材を兼ねた参加者の立場で出席し、アイデアを出し合う町民の仲間に加わらせてもらった。〇：西小6年男組をはじめ、10・30歳代が大勢参加した。これは会議を活かしただけでなく、「自分たちがこの町を盛り上げたい」という強い意欲を言葉の端々から感じ取れた。

〇：参加者それぞれが得意なジャンルや技術、経験を持っていることも分かり、多士済々のメンバーが取り組むプロジェクトを記者、個人の両方の立場で、今後も追っていきたいと思う。



施設整備などハード面での取り組みが必要となった場合は、町の事業化への検討も視野に入れて、国の地方創生推進交付金の事業採択も目指したいとする。

含む人が名乗りを上げた。 「音楽フェスティバルのようなイベントをやりたい」という30代男性の提案には、同世代の別の男性が同調の声を上げた上で、自身の考えを付け加える場面もあり、会議中の短時間で瞬く間に参加者同士が意気投合していた。

参加者の一人は「それぞれが人々のネットワークを持つているが、会議を通して知らなかった人とも面識ができた。ネットワークがどんどんつながっていくのを肌で感じ、面白くなりそう」と期待する。

町は、プロジェクトを実行に移していく会議を2月15日(金)を皮切りに定期開催したいと考えて、作戦会議で誕生した九つのプロジェクト以外の提案・仲間づくりも歓迎する。

好機捉えた動き各所で

町内では、盛り上げてきた「ど真ん中」をチャンスと捉える動きがある。地域おこし協力隊が昨年からの取り組みで活動に加え、PRが

町は、後方支援をする(まちづくり政策課)というスタンスで、プロジェクトが具体的に、協働のまちづくり支援金や若者チャレンジ応援補助金といった補助制度の積極的な活用を呼び掛けたとしている。また今後、遊歩道や